

V 普及指導

1 見学者

平成13年の開所当初は、全国的にも珍しい木材専門の研究機関であることや、施設がスギ材を活用した特徴のある大規模木造建築物であることから、県内外から見学者が殺到した。このため、平成13年度途中から、施設見学や研修対応のための専門の補助員を配置した。

開所から10年間で、約1万9千人の見学者があり、県外からは住宅・木材関連企業、県内からは木材関連企業・学校など幅広い分野からの見学が多い。

(単位:件・人)

年 度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	累 計
件 数	187	208	130	90	119	121	102	117	121	115	1,310
人 数	3,679	2,785	2,035	1,429	1,409	1,528	1,875	1,614	1,445	1,304	19,103

県内：12,574人 県外（海外を含む）：6,529人

2 技術相談・指導

企業等からの相談や技術指導を行ったきた。センター開所当初は木材乾燥に関する技術相談や指導が多かった。開所5年目頃からは企業や行政機関からの木造建築に関する相談や指導が増えてきた。

(単位:件)

年 度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	累 計
企画管理課	-	-	40	27	33	48	46	34	40	42	310
材料開発部	31	83	126	74	38	74	50	27	37	52	592
木材加工部	62	218	224	189	183	141	133	120	88	105	1,463
構法開発部	134	229	355	378	353	287	328	276	387	390	3,117
計	227	530	745	668	607	550	557	457	552	589	5,482
内 訳											
企業	173	402	548	481	415	392	366	380	442	448	4,047
行政機関	43	111	178	160	185	130	173	63	88	115	1,246
個人等	11	17	19	27	7	28	18	14	22	26	189

※ 森林組合等団体は企業に、大学等の教育機関は行政機関に含む

3 依頼試験

県内外の企業等から依頼試験を行ってきた。件数としては、小試験体強度試験が最も多く、次いで曲げ試験となっている。また、県内からの依頼が67%、県外から依頼が33%となっている。

(単位:件)

年 度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	累 計
県 内	109	111	130	40	31	52	34	61	42	78	688
県 外	16	30	41	41	19	27	26	54	10	74	338
計	125	141	171	81	50	79	60	115	52	152	1,026

4 研究成果報告会

試験研究内容や成果を幅広く関係企業や行政機関等にPRするため、研究成果報告会を開催してきた。

年 度	開 催 日	開 催 場 所	発表者	参加者
平成14年度	平成15年 3月18日	宮崎県木材利用技術センター	6名	約40名
平成15年度	平成16年 3月19日		6名	約55名
平成16年度	平成17年 3月22日		6名	約55名
平成17年度	平成18年 3月16日		12名	約55名
平成18年度	平成19年 3月 9日		12名	約75名
平成19年度	平成20年 2月26日		12名	約50名
平成20年度	平成21年 3月 3日		12名	約55名
平成21年度	平成21年 7月15日		12名	約80名
平成22年度	平成22年11月30日		11名	約60名

5 業務報告書、もくぎせだよりの発行

平成14年度から、前年度の試験研究内容や成果を幅広く関係企業や行政機関等にPRするため、業務報告書を発行してきた。特に、研究成果についてはHPに掲載し、幅広く普及に当たっている。また、関係業界と木材に関心を持たれる一般の方々とを結ぶ「もくぎせだより」を発行してきた。なお、「もくぎせだより」の題字は初代大熊所長によるものである。

<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kankyo/mokuzai/wurc/index.htm>



6 学会発表

日本木材学会等の各学会に出席し、実験・研究の成果を発表してきた。さらに、日本のスギを世界のSUGIとするため、国際学会等でPRを行ってきた。国際学会等への出席は次にとおりである。

年 度	開催日	学会名	場所	出席者
平成13年度	2001. 5	The International Research Group on Wood Preservation	奈良県	飯村 豊
	2002. 3	1st Thai Biomass Utilization Symposium	タイ	大熊幹章
平成15年度	2003. 4	International Conference on Forest Products (Korea)	韓国	荒武志朗・飯村 豊
	2003. 11	8th IUMRS International Conference on Advanced Materials (Yokohama)	神奈川県	小田久人・藤元嘉安
平成16年度	2004. 6	8th World Conference on Timber Engineering	フィンランド	有馬孝禮・荒武志朗 飯村 豊

年 度	開催日	学会名	場所	出席者
平成16年度	2004. 11	3rd International Symposium on Surfacing and Finishing of Wood, IUFRO Division 5	京都府	藤本英人・飯村 豊
平成17年度	2005. 11	International Symposium on Wood Science and Technologies 50th Anniversary of The Japan Wood Research Society	神奈川県	有馬孝禮・藤本英人 藤元嘉安・荒武志朗 森田秀樹・飯村 豊
平成18年度	2006. 8	9th World Conference on Timber Engineering (Portland)	アメリカ	有馬孝禮・藤元嘉安 荒武志朗・飯村 豊
	2006. 12	第1回日中韓三カ国セミナー	中国	飯村 豊
平成19年度	2007. 10～11	2007 IUFRO All Division 5 Conference	台湾	有馬孝禮・森田秀樹 松元明弘
	2007. 12	第2回日中韓三カ国セミナー	韓国	飯村 豊・椎葉 淳
平成20年度	2008. 6	10th World Conference on Timber Engineering 2008	宮崎県	有馬孝禮・小田久人 岩崎新二・赤木 剛 藤元嘉安・荒武志朗 森田秀樹・松元明弘 飯村 豊・北田孝二 椎葉 淳・上杉 基
	2008. 12	The IUMRS International Conference in Asia 2008	愛知県	藤元嘉安・荒武志朗
	2008. 12	第3回日中韓三カ国セミナー	宮崎県	有馬孝禮・藤本英人 小田久人・岩崎新二 赤木 剛・藤元嘉安 荒武志朗・森田秀樹 松元明弘・飯村 豊 北田孝二・椎葉 淳 上杉 基
平成21年度	2009. 8	第4回日中韓三カ国セミナー	中国	赤木 剛・藤元嘉安 森田秀樹・椎葉 淳
平成22年度	2010. 6	11th World Conference on Timber Engineering	イタリア	有馬孝禮・荒武志朗 松元明弘
	2010. 8	XXIII IUFRO World Congress	韓国	有馬孝禮・赤木 剛 藤元嘉安・森田秀樹
	2010. 1	第5回日中韓三カ国セミナー	韓国	藤元嘉安・荒武志朗 田中 洋

国際学会等のうち、10th World Conference on Timber Engineering 2008（第10回木質構造国際会議）、第3回 日中韓三ヵ国セミナーでは事務局を担った。

木質構造国際会議は、木質構造に関わる最新の技術、研究、革新的な設計手法、事例などに関する発表・情報を交換する世界最大の会議で、2年ごとに開催されている。

第10回木質構造国際会議は、2008年（平成20年）6月2日から5日まで宮崎市で開催された。日本での開催は、1990年に東京で開催されてから18年ぶりであった。38の国と地域から525人（国内224人、国外301人）の参加があり、7つの分科会で、材料、構造、設計などの23テーマに分かれて、308件の口頭発表、121件のポスター発表があった。

日中韓三ヵ国セミナーは、三ヵ国の木材の研究者が、それぞれの地域材の利活用に対する研究成果や技術情報を相互に交換することを目的に開催されている。第3回日中韓三ヵ国セミナーは、2008年（平成20年）12月7日に当センターを会場に25名の参加があり、各国から3件の口頭発表があった。

7 木育

木と関わることで、木に対する親しみや理解を深めて、ひいては木を生活に取り入れたり、森づくりに貢献したりすることのできる人の育成を目指す活動である木育の取組みは、平成17年度頃から行ってきた。それ以前は、木工教室などは行っていたが、木育の講義は行っていなかった。

また、各種団体が主催するイベントに参加し、クイズやパズル等の木育活動も行ってきた。

年 度	開 催 日	対 象	受講者数
平成17年度	平成17年 5月27日	都城市立祝吉小学校	144名
	平成17年 6月 4日	愛知万博	
	平成17年 8月27日	都城市立東小学校	35名
	平成17年 9月13日	宮崎県立都城農業高校	40名
	平成17年10月29日	宮崎市立赤江小学校	84名
平成18年度	平成18年11月16日	都城市立祝吉中学校	180名
	平成18年11月24日	宮崎県立宮崎工業高校	83名
	平成19年 2月16日	都城市立四家小学校	10名
平成19年度	平成19年 5月25日	都城市立祝吉小学校	123名
	平成19年 6月14日	鹿児島県立末吉高校	32名

年 度	開 催 日	対 象	受講者数
平成19年度	平成19年 8月19日	親子木工教室(木育会と共催)	82名
	平成19年10月20日	子供エコクラブ	30名
	平成19年11月17日	親子木工教室(祝吉小、東小、他)	24名
	平成20年 2月 4日	都城市立祝吉中学校	215名
平成20年度	平成20年 5月16日	都城市立祝吉小学校	152名
	平成20年 7月26日	親子木工教室	60名
	平成20年10月17日	都城市立都城南小学校	67名
	平成21年 3月 5日	都城市立祝吉中学校	173名
	平成21年 3月11日	宮崎県立高鍋農業高校	10名
平成21年度	平成21年 7月 3日	都城市立祝吉中学校	180名
	平成21年 7月25日	親子木工教室	60組
	平成21年10月24日	親子木工教室(東小)	30名
	平成21年11月19日	都城市立明道小学校	54名
平成22年度	平成22年 5月14日	都城市立祝吉小学校	120名
	平成22年 7月31日	親子木工教室(子供クラブ)	48名
	平成22年10月 4日	都城市立祝吉中学校	56名
	平成22年11月10日	宮崎県立泉ヶ丘高校	160名
	平成23年 2月19日	木育サポーター研修	33名

8 技術移転

試験・研究の成果は主に県内の企業等に技術移転を行っており、これまでに42件の技術移転が完了している。

年 度 (件数)	内 容	関 係 企 業 等
平成 13年度 (2件)	サンドーム日向	日向市、 宮崎ウッドテクノ(株)
	南郷くろしおドーム	南郷町、 宮崎ウッドテクノ(株)
平成 14年度 (4件)	スギ合わせ材の開発	木脇産業(株)、 ランバー宮崎(協)
	宮崎県知事公舎	宮崎県管財課、 宮崎ウッドテクノ(株)
	木質深底容器	株合電
	湾曲集成材の開発	丸十産業(株)
平成 15年度 (6件)	かりこぼうず大橋	宮崎県児湯農林振興局、 西米良村、 宮崎ウッドテクノ(株)
	スギ心持ち柱材の高温乾燥技術	外山木材(株)ほか
	宮崎県立西都原考古博物館	宮崎県営繕課、 マイウッド・ツー(株)ほか
	第55回全国植樹祭お野立所設計支援	宮崎県植樹祭準備室、 設計事務所ほか
	木の花ドーム	宮崎県営繕課、 (株)大建設計ほか
	双子柱商品開発	デクスウッド宮崎事業(協)
平成 16年度 (3件)	木質断熱材パネル開発	国産材住宅協議会
	宮崎県立大宮高等学校体育館	宮崎県営繕課、 宮崎ウッドテクノ(株)
	綾てるはドーム	綾町、マイウッド・ツー(株)
平成 17年度 (7件)	日向地区外構木材検討会 (ガイドブック、塩見橋手すり)	宮崎県日向土木事務所、 日向木の芽会、 技術コンサルタント(株)
	宮崎スギスパン表	宮崎県産材流通促進機構ほか
	日南市天福球場内野スタンド	日南市
	宮崎県立高鍋高等学校体育館	宮崎県営繕課、 宮崎ウッドテクノ(株)
	内装兼用断熱型枠仕様書	国産材利用開発協会

年 度 (件数)	内 容	関 係 企 業 等
	宮崎県立学校普通教室用木製学童机	宮崎県家具工業会
	木材利用促進学習プログラム	宮崎大学、 宮崎県山村・木材振興課
平成 18年度 (3件)	日向市駅舎	宮崎県都市計画課、日向市、宮崎ウッドテクノ(株)
	韓国への新軸組木造	ランバー宮崎(協)、 ウッドエナジー(協)
	木と鉄を組み合わせるハイブリッド木造の開発	(株)志多組、昭和鉄工(株)
平成 19年度 (3件)	構造用集成材のJAS改正	ウッドエナジー(協)
	韓国へのスギ輸出民間支援 「製材、集成材」	ランバー宮崎(協)、 ウッドエナジー(協)
	大断面製材と鉄骨のハイブリッド構法 (M製材所工場建設)	(株)志多組、昭和鉄工(株) ランバー宮崎(協)
平成 20年度 (6件)	スギ精油大量採取技術	オビスギ精油利用促進協議会
	スギーヒノキ異樹種集成材	ウッドエナジー(協)
	サウスウッド宮崎協同組合木造新築工事	志多一級建築事務所、 ランバー宮崎(協)
	スギLVL内装兼用型枠	(株)大三商行 サンテック事業部
	日南市天福公園内投球練習場 屋根トラス設計施工	日南市、 丸彦渡辺・松尾建設JV
	日南市夢見橋	日南市、宮崎県油津港湾事務所、 (株)熊田原工務店
平成 21年度 (4件)	JA西都農産物直売所 ファーマーズマーケット(いっちょが広場)	JA西都
	三股町産業会館	三股町
	スギ精油の芳香剤利用	オビスギ精油利用促進協議会
	スギ精油の蜜蝋ワックス	(有)西澤養蜂場
平成 22年度 (4件)	RC造共同住宅における内装木質化	久保産業(株)
	木造温室	(株)ハルコーポレーション
	製材トラスチップ工場	(有)谷明産業
	大径材から得られたスギ側面定規挽き材	(株)もくみ
	計 42件	

9 スギシンポジウム

スギに関する諸問題について幅広い見地から検討するため、シンポジウムを開催してきた。

スギシンポジウム2001（平成13年8月10日 都城市）

● 基調講演

「木材を忘れた建築、建築を忘れた木材」

東京大学 名誉教授 杉山英男氏

● パネルディスカッション「地域産材活用への挑戦」

コーディネーター：宮崎県木材利用技術センター 所長 大熊幹章

パネリスト：日本住宅・木材技術センター 研究開発部長 西村勝美氏

国産材住宅推進協会 代表 北山康子氏

耳川広域森林組合 組合長 甲斐重勝氏

都城地区プレカット事業協同組合 理事長 木脇義貴氏

宮崎県林務部 部長 上河潔



基調講演



パネルディスカッション

スギシンポジウム2003（平成15年3月10日 宮崎市）

● 基調講演

「環境保全の世紀を迎えて、九州のスギ造林は宝の山となるか」

宮崎県木材利用技術センター 所長 大熊幹章

● パネルディスカッション「地域産材活用への挑戦」

コーディネーター：東京大学名誉教授 有馬孝禮氏

パネリスト：(社)経済同友会 マネージャー 梶山恵司氏

中国木材(株) 代表取締役社長 堀川保幸氏

都城木材(株) 代表取締役社長 五十嵐可久氏

宮崎県木材利用技術センター 構法開発部長 飯村豊



パネルディスカッション



基調講演

スギシンポジウム2004～飛躍する木材利用と循環型社会～ (平成16年2月12日 宮崎市)

● 基調講演

「なぜ、今木材か」

宮崎県木材利用技術センター 所長 有馬孝禮

● 特別講演

「地域に根ざす建築とまちをつくる木造技術の再構築」

アルセッド建築研究所代表取締役所長 芝浦工業大学教授 三井所清典

「宮崎県におけるスギ材乾燥の取り組み」

宮崎県木材利用技術センター 材料開発部副部長 小田久人

「木造でオフィスビルを～中高層木造建築の可能性～」

大橋IH研究所所長 熊本県立大学助教授 大橋好光氏



基調講演



講師の皆様

木の建築フォーラム/都城スギシンポジウム2004

(平成16年11月27日 都城市)

● 基調講演

「オビスギに材質の多様性をみる」

宮崎大学農学部 教授 北原龍士氏

● パネルディスカッション

「オビスギにみる現代技術によるスギ材の利用とその展望」

コーディネーター: 宮崎県木材利用技術センター 所長 有馬孝禮

パネリスト: 日南製材事業協同組合 理事長 高嶺清二氏

(独)森林総合研究所 構造利用研究領域長 神谷文夫氏

(株)総合企画設計いわい 代表取締役 岩井秀一郎氏

宮崎大学工学部土木環境工学科 教授 中澤隆雄氏

宮崎県木材利用技術センター 構法開発部長 飯村豊



パネルディスカッション



基調講演

スギシンポジウム2006～バイオマス資源としてのスギ材利用～ (平成18年2月16日 宮崎市)

● 基調講演

「バイオマス利用の現状と課題」

(株)三菱総合研究所 主任研究員 渋谷住男氏

● 特別講演

「地域材利用としての木質バイオマス～岩手の試み～」

岩手・木質バイオマス研究会 会長 金沢滋氏

「パーク利用の理想と現実」

ウッドエナジー協同組合 代表理事 吉田利生氏

「木質バイオマス利用による循環型社会の構築を目指して

～都市エリア産学官連携促進事業(都城盆地)紹介～」

宮崎県木材利用技術センター 材料開発部長 藤本英人



基調講演



特別講演の講師の皆様

スギシンポジウム2007～スギを再考する～

(平成19年2月13日 都城市)

● 基調講演

「国産材時代の到来?～杉を使い切る～」

秋田県立大学木材高度加工研究所 教授 飯島泰男氏

● 特別講演

「「き」組の家づくり-国産材・杉の家づくりの試み-」

(株)松井郁夫建築設計事務所 代表取締役 松井郁夫氏

「家づくりに、山の想いを込めて」

柴設計 代表 柴睦巳氏

「杉は強い?弱い?」

宮崎県木材利用技術センター 木材加工部副部長 荒武志朗



講師の皆様



基調講演

スギシンポジウム2007(平成19年度)～スギの新たな可能性～
(平成19年11月6日 宮崎市)

● パネルディスカッション

コーディネーター:九州大学大学院農学研究院 教授 村瀬安英氏

パネリスト:「木材加工廃材を原料とする建築用断熱材の開発と実用化」

岩手大学農学部 教授 関野登氏

「圧密化技術によるスギの需要拡大の課題」

マイウッド・ツー(株) 代表取締役社長 福山昌男氏

「ツーバイフォーにスギを」

ネットイーグル(株) 代表取締役 祖父江久好氏

「オビスギの特徴とその活かし方」

宮崎県木材利用技術センター 木材加工部長 藤元嘉安



パネルディスカッション



質問の様子

スギシンポジウム2008～東アジアにおけるスギの未来～

(平成20年12月18日 宮崎市)

● 基調講演

「東アジアにおける木造建築のもつ意味と今後の展開」

宮崎県木材利用技術センター 所長 有馬 孝禮

● 特別講演

「中国における木質構造基準と木材利用の現状」

中国林業科学研究院木材工業研究所 助教授 殷 亞方 氏

中国建築西南設計研究院有限公司 高級技師 学兵 氏

「韓国における伝統的軸組木造の復興と木材利用の現状」

ソウル大学農学生命科学大学 教授 李 銓濟 氏

guga 都市建築研究所 代表 趙 鼎九 氏

「東アジアの現地状況にあわせた新しいスギ軸組木造のシステム開発」

宮崎県木材利用技術センター 構法開発部長 飯村 豊



講師の皆様



基調講演

スギシンポジウム2009～スギ（木材）をもっと身近に～ (平成21年12月10日 宮崎市)

● **基調講演**

「幼稚園から大学生・高齢者まで ^{いき いき}暮らしに木を、「木育」で人間・活木・活木」
島根大学教育学部 教授 山下晃功氏

● **特別講演**

「地域の木に親しむ -スギがスキになる木育-」
KEN工房主宰 木育ファミリー 代表 煙山泰子氏

「宮崎における木のふれあい活動」

川上木材(株) 代表取締役 元九州木青会連合会 会長 川上宰氏

「環境を守るための木づかい」

宮崎県木材利用技術センター 木材加工部長 藤元嘉安



特別講演の講師の皆様



基調講演

スギシンポジウム2010～木材・木造建築の近未来～

(平成22年10月29日 都城市)

● **基調講演**

「都市の木造建築学」

東京大学生産技術研究所 准教授 腰原幹雄氏

● **パネルディスカッション「新たなる展開・挑戦」**

コーディネーター: 宮崎県木材利用技術センター 所長 有馬孝禮

パネラー: 「木造建築物の防火対策」

桜設計集団一級建築士事務所 代表 安井昇氏

「欧州における木材利用CLTの紹介と住宅部品への展開の可能性」

(財)ベターリビングつくば建築試験研究センター構造性能試験研究部
主席試験研究役 岡部実氏

「上(かみ)と下(しも)を結ぶ国産集成材」

ウッドエナジー協同組合 代表理事 吉田利生氏

「木造・木質化推進の鍵」

宮崎県木材利用技術センター 構法開発部副部長 皆内健二



基調講演



パネルディスカッション